

10月25～28日 宮之浦岳

藤村 敏幸

山名	宮之浦岳	山行名	屋久島縦走
ルート	白谷雲水峡・白谷小屋・縄文杉・新高塚小山・宮之浦岳・淀川登山口		
山行日	令和3年10月25日～28日	天候	霧雨、曇り、晴れ 色々
参加者	CL: 藤村 SL: 西川 会計 北條 記録 秋山 平尾 伊藤多恵子		

	コースタイム		新高塚小屋着	16:00
	地名	時:分	10/27 新高塚小屋発	5:45
	10/25 白谷雲水郷	13:40	宮之浦岳着	9:35
	白谷山荘着	16:13	宮之浦岳発	10:20
	10/26 白谷山荘発	6:30	花之江河	13:55
	縄文杉着	13:20	淀川小屋	16:00
	縄文杉発	14:15	淀川登山口着	17:00

2014年の4月本屋で何気なく見た山と渓谷5月号の屋久島特集を読み何時か登ろうと思えば棚にしまいこみしていた。それから5年後、念願が叶い、特集記事の通り屋久島のハイライト全部2泊3日縦断コースを素晴らしい天候と同行者に恵まれ、ほぼ予定通りのタイムで縦走できた。どの場所も素晴らしく本州とは異なる南国の樹林帯と稜線を歩く気持ちよさは格別でした。コロナ禍のおかげで心配していた山小屋の混雑もなく、縄文杉周辺も見学者が少なく心ゆくまで眺めることができた。コース全域整備の行き届いた道で難所には階段やロープが設置され歩き易く、急勾配の登りや下りも少なく楽に歩けた。ただ大株歩道入口から縄文杉まで上下道が続き、丸太を薄く切った株板が敷かれ2回ほど滑る。白谷小屋は、蛇口から流し放題なほど水が豊富で、床は板張、約20畳の部屋でソーラー発電の豆球と緊急電話がある。トイレは小屋内にあり、外気に触れることなく利用できた。新高塚小屋は大きく約30畳、居間が2段で多人数の宿泊が可能、床は板張り、ただ水は雑木林の流れ水を集め、チョロチョロと零れ落ちる程度の水量でペットボトル一杯にするのに時間を要した。一度煮沸して飲み水とする。トイレは屋外の4カ所ある。携帯用トイレ持参するが、各山小屋や途中の休憩所にもトイレがあり、結局全員使用しなかった。10月下旬で防寒具を準備するが、今回は天候も安定し、朝夕方は少し冷えるが、昼は温かく本州の11月中旬の気温、薄着で過ごすことができた。民宿の主人は、夏は暑くて登れない、5月は人が一杯であり、適しているのは、10月下旬から11月上旬との話である。途中鹿や猿に合うが皆近づくと逃げていく。白谷小屋から新高塚小屋までは、数カ所水場があり、一人1.5リットルがあれば十分である。新高塚小屋から、宮之浦岳までは水場がないが、そこを過ぎ、稜線を下ると水が流れている所が多数ある。投石岳近くで、コヒータムにしたが、その時は流れ水を汲み集め沸かし疲れを癒す。新高塚小屋をAM6時頃出発し淀川登山口着がPM5時で昼食を除いて約10H、10kg以上の荷物で歩き通した。頂きを登る度素晴らしい風景が目の前に現れ、感動し、写真を撮り、触れている内に花之江河に到着したように思う。永田岳に登るのであれば、更に2時間ほど時間が必要である。食事は朝と夕はレトルト食、昼はパンで過ごす腹も減ることもなく十分に活動できた。ガスボンベは空港の売店で購入、携帯は谷底では繋がらないが、縄文杉からは話ができ、稜線上では電波が入る所があり何回も確認した。昨年の12月頃から屋久島と南九州の山行計画を企画し、色々な資料を集め、詳細な計画を作成し、更に現地に電話して色々な状況を提供していただいた山下さんありがとうございました。山下さんの指導・助言によりトラブルもなく無事山行できたことを感謝しています。参加された皆様、厳しい環境に不満も言わず同行していただきありがとうございました。ヒヤリハット なし



白谷雲水峡登山口

白谷小屋



ウイルソン株の中



縄文杉



新高塚小屋



永田岳



宮之浦岳



頂上



大忠岳の天柱石

翁岳



民宿「たけんこ」前

いつか行こう、きっと行こうと思いながら何十年も経ってしまい、ついにもう無理かなと思い始めた今年、年間の山行計画に屋久島が出ていた。しかも「縦走」付きで。見境もなく申し込んでから、半年近く経ち、ハッと我に返る。「本当について行けるの？」だんだん不安がつのってくる。同行者は健脚ぞろい。荷物は最低10キロ。一日だけならともかく、2泊3日だよ。自主トレーニングは、2リットルの水を増やしたぐらい。計画表をよくよく見ると、一日目は2~3時間、まあ何とかなる。2日目は7~8時間、でも縄文杉で一時間取ってある。問題は10時間コースの3日目だ。ここでダウンかなあ…。はってでも付いて行くしかないなあ…。今更、あきらめたくないなあ…。というのが行くまでの正直な気持ち。

屋久島、想像以上に素晴らしいところでした。しっとりと苔に覆われた白谷雲水峡。何もかもが水を含み手で触れると水滴がしたたり落ちる。沢にある石も、巨木も、木の橋や階段も苔むしている。翌日は、あの有名なトロッコ道を歩いて、ウイルソン株、大王杉、と次々に現れる巨木を見上げ「ほ～」と溜息ばかり。名前さえない巨樹も多くて縄文杉に辿り着いたときには、観光地的な雰囲気に吞まれて少々疲れ気味。でも、そこを過ぎると人の姿が消え、自然な山の雰囲気に再び励まされる思いで次の小屋へと進むことができた。

3日目、宮之浦岳を目指して、ヘッドランプを点けて歩き出す。新高塚小屋の標高が高かったためか、昨夜は寒くてほとんど眠れなかった。それでも朝日が射し始めると身体が暖かくなり、元気が出る。樹林帯を抜けると一面の笹原だ。他の山には見られない独特の景色が広がって、心がのびやかになる。緑の絨毯の中に灰白色の岩が屹立している。まるで誰かが造形したアート作品のよう。モアイ像にそっくりなもの、大根を輪切りにしたようなもの、石仏に似たものもある。面白い。

宮之浦岳からの眺望は素晴らしい。永田岳、翁岳など特徴のある周囲の山々を眺めながらゆっくりと過ごすことができた。時々一枚岩を上り下りしなければならなかったが、道はよく整備されている。投石平、黒味岳分岐と過ぎ、途中でくつろぎのコーヒータ임も。やがて開けた湿地帯の花之江河へ。鹿が遊んでいそうな気持ちのよい広場。またまたゆっくりしたかったが、時間を気にしているCLさんに促されて出発。登山口でTさん夫妻がタクシーとともに待っていてくれた。遅くなってごめんなさい！CLさんの上りのペースについて行けなかった私のせいで全体のペースを落としてしまいました。

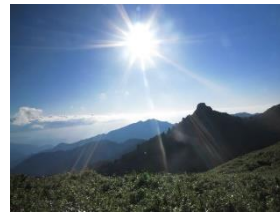
みんなのために何度もお湯を沸かしてくれたAさん、Hさん。会計役のHoさん、翌日の屋久島観光で運転してくれたNさん、そして何よりも今回の素晴らしい旅を企画してくれたCLのFさん、みなさん本当にありがとうございました。私にとって今年最初で最後の山旅が心に残る貴重なものとなったのは皆さんのおかげです。

<余談>私とNさんは居残ってY組に合流。鹿児島へ移動する前に半日遊べることに。屋久島一周のドライブをして、千尋の滝、トローキの滝、大川の滝、海中温泉、永田いなか浜など、立ち寄れるところはすべて立ち寄った。海は真っ青で透き通っていて、とにかくキレイ。西部林道では次々に鹿と猿が現れ、道路に座り込んでノミ取りをしている数十頭の猿の群れには驚いた。「(車で) ひかないでね！」とキャーキャー言っているのに、「大丈夫、勝手に逃げて行きよるから」とNさんは平然としている。

屋久島は、海岸沿いは野生の芙蓉の花にハイビスカス、ブーゲンビリアが咲き乱れる南国でも、宮之浦岳は北海道と同じ平均気温だとか。そのため、自然も変化に富んでいる。宮之浦岳以外にも、永田岳、黒味岳、モッコム岳、愛子岳など魅力的な山があり、縄文杉だけが屋久島ではないのです！

4年越しに実現した屋久島宮之浦岳山行。白谷雲水峡から無人小屋で2泊し、九州最高峰宮之浦岳から淀川登山口までの縦走路を長時間歩いて無事ゴールできた。屋久島は、亜熱帯から亜寒帯まで日本の植生の垂直分布が見られる貴重なところ（ブナは日本の南限が鹿児島県の高隈山なので生えていない）。樹齢1000年以上の屋久杉が次々と現れ、切り株から2代目、3代目が伸びたもの、多種類の樹木や着生植物をまとったもの、他の広葉樹と合体したようなもの、オレンジの肌のヒメシヤラの巨木など、これまでの山行でみてきた巨木を超える木が次々と現れた。苔むした森と花崗岩の溪流は、まるで「もののけ姫」の世界だった。平石からは、宮之浦岳に向かう広大なヤクザサの草原の展望が開けた。途中ガスで山頂は見えなくなったが、早い昼食をとっているうちに青空になり永田岳も見ることができた。淀川登山口への下山時は、花崗岩の白い巨石が山上のあちこちに不思議な姿で現れた。投石平の日本庭園のような光景や日本南限の高層湿原花之江河など印象的だった。花の少ない時期だったが、焼野分岐から宮之浦岳への登りの途中で、刺のあるキイチゴのなかまの白い花があった。空港の売店の本で調べたらヤクシマヒメバライチゴだった。ヤクシマオナガカエデの紅葉が見られ、ヤマボウシの実やリンゴツバキの大きな実も落ちていた。ヤクシマシクナゲの咲く頃も素敵だろうと思う。ヤクジカには3日とも間近で出会い、ヤクザルにも山中や帰路で見かけた。世界遺産屋久島の豊かな自然にたっぷり触れ合えた3日間だった。万一小屋がいっぱいのに備え、2人用テントを持参、ガスボンベと水を加え光岳テント泊の時を超える重さのザックをかついでの3日間となった。ゆっくり1歩1歩を慎重に歩いた。長い縦走を全員無事成し遂げられたのは、5月連休の愛宕山・竜ヶ岳トレ山行に始まり、夏頃からそれぞれが山行に何回も参加してトレーニングを重ねてきた結果だと思う。「1月に35日雨が降る」屋久島で、天候に恵まれ快晴のもと宮之浦岳に登頂・縦走できたのは大変幸運だった。計画していただきお世話になったC L藤村さんと、3日間いっしょに寝泊りし山行できたみなさんのおかげと感謝しています。





秋山 正子

10月25日 伊丹空港に各自で集合。プロペラ機で鹿児島、もっと小さいプロペラ機で屋久島へ、無事、到着♥ 残念ながら時雨模様。タクシーで白谷雲水狭入り口。雨具を着て出発し、2時間強で白谷小屋に到着。ここはとても環境がいいです。小屋の中に無尽蔵に水が流れているトイレもマメ球ですがセンサーライトです。床も板張りできれいに掃除してありました。人はほとんどいませんでした。

次の日、6時30分出発。今日はとてもいい天気です。苦手なトロッコ道に板がしいてあり、歩きやすくなっていました。大株の杉だらけ。感動に次ぐ感動。屋久島の空気感じます。縄文杉で遅い昼食。縄文杉は近づけなかったですが、たくさん写真を撮りました。すれ違う兵庫県から来たという中学生に励まされながら重い荷物を担いで16時、新高塚小屋に到着。ここは前日に泊まった小屋とは違い、トイレも水場も外。しかも水場とはいえ岩の上を濡らしながらなめるようにしたたる絹糸のような水をじ

一っとためなければなりません。私たちのグループだけではないし、テント組もいてとても時間がかかったのと、衛生的に不安があったのでみな煮沸して使いました。

3日目、5時出発。そこからもう反対側の淀川小屋まで水場はなく、その分、荷物も重くなります。宮之浦岳を目指して4時間30分余り、登頂成功。直前に頂上で合流予定だったチームからの離脱宣言。少しへこんで早めの昼ご飯。9時35分。はじめ曇っていた天気もどンドン晴れて永浦岳、翁岳、その他、遠くまで見通すことができました。がんばったご褒美でした。10時20分出発。花之江河を経て、淀川小屋で川の水を給水、トイレをすまし、17時淀川登山口到着です。11時間余りの長丁場でしたが皆元気に下山しました。民宿でほかのメンバーとご対面。お風呂に入り、みんなと楽しい夕餉を頂きながら大いに盛り上がりました。楽しかった。次の日、九州組の旅立ちを見送ってのち、私たち4人組も出発。これで旅は終わりました。屋久島なのに、好天気にも恵まれ、ほんとによかったです。いろいろ準備して下さった皆様、ほんとにありがとうございました。

北條 都

天気予報からいくと、雨の屋久島のはずがいい方に外れて3日も天気にも恵まれた。避難小屋に2泊する行程でトイレもまともなものはないし、ネズミが出たりするというので、どんなところに泊まるのか非常に心配していたけれど、1泊めの白谷小屋は、トイレは小屋のなかにあり、その上、人体感知式の電気がついていたのにびっくり。部屋も豆球だけど、電気がついていた。1人だけ同宿者がいただけでほとんど貸し切り状態、水はずっと出たまま使い放題という恵まれた小屋だった。

レトルトの御飯も山で食べるとまあまあ美味しく食べられた。ウィルソン株の空洞から空を見上げるとハート型が見えるということだけけど、あれかな、いやいやこっちやでとか、結局あまりよくわからなかった。

縄文杉までは、一度行ったことがあった。トロッコの廃線跡の道が、整備されていて歩きやすかったけれどやっぱり長くて、こんなに遠かったかなと思ったのは、今回の荷物のせいだろうか。

縄文杉は、やっぱり素晴らしく、長い歴史を感じた。

2日目の新高塚小屋は、水の出が悪く水を汲むのが大変で、トイレは小屋の外だった。1泊目がよすぎたのでギャップが大きい。でもこれが避難小屋の泊まりでは当たり前のことだと思う。ネズミの対策もしてくれていたのがよかった。

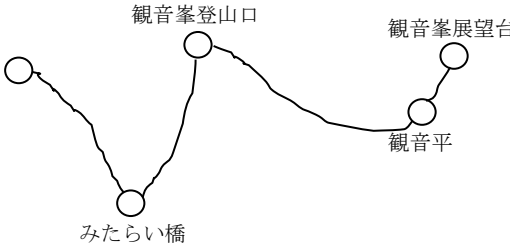
縄文杉、ウィルソン株の杉などは前に一度行ったことがあったので、苔と杉の織りなす風景が屋久島だと思っていたけれど、新高谷小屋から宮之浦岳、淀川登山口までは景色が一変して、低木や奇岩がありこれも屋久島なんだと新しい発見をした。

携帯用トイレを使うこともなく、CLさん SLさんのおかげで念願の宮之浦岳に荷物をしょって登れて、少し自信がついた。とても楽しい思い出に残るいい山行だった。

ねずみ対策にハッカ油を用意したり、重いのに下に敷くブルーシートをもってきたりと、いろいろお世話いただきありがとうございました。

10月30日 観音峯

黒崎高生

山名	観音峯（展望台）	山行名	個人山行			
ルート	天川村役場～みたらい溪谷～観音峯登山口～観音平～観音峯展望台（往復）					
山行日	2021. 10. 30（土）	天候	晴			
参加者	CL：黒崎、SL：藤本、幾田、染矢、佐々木、木田、吉田、玉置 合計：8名					
ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	京田辺	発	06:30	観音平	着	12:30
					発	12:35
	天川村役場	着	08:20	観音峯登山口	着	13:15
		発	08:50		発	13:25
	みたらい橋	着	09:20	天川村役場	着	14:40
		発	09:30		発	14:50
観音峯登山口	着	10:05	京田辺	着	19:00	
	発	10:20				
観音峯展望台	着	11:35				
	発	12:15				
山行報告 5月に中止になった観音峯へ 最近2回の山行が『てんくら A』なのに見事に裏切られていたが、今回はいい天気となりました。6時30分京田辺を出発し8時20分天川村役場到着。SL自慢のラジオ体操の歌を全員で熱唱？（少し恥ずかしいので周辺を確認しながら・・・）後、体操を実施して8時50分役場をスタートした。みたらい橋まで一般道を歩き、みたらい溪谷の絶景ポイントの哀伝橋を渡ると大きな一枚岩の上から、みたらいの滝が岩の間を縫って流れる景色とエメラルドグリーンに輝いた神秘的な淵が見えました。川沿いには遊歩道が整備されている。 みたらい溪谷は年間を通して春は新緑、夏は水しぶきに川サツキ、秋は紅葉、冬は山水画と四季折々の景観が楽しめるそうです。 観音峯登山口となる休憩所から展望台まで、ほぼ休憩なしで登ったが途中にある観音の水の水場でTさんが滑って水受けの中に足を突っ込み、皆に笑いを届けてくれた。 展望台は風もなく大峰の山々（八経ヶ岳や稲村ヶ岳）を一望しながら昼食を済ませ下山。まだ紅葉には少し早いと思われませんが、所々赤や黄色に色づいて秋を思わせる一日でした。（紅葉の見頃は11月上旬～中旬だそうです。） 予定より1時間程早く役場に到着。その後は、天の川温泉で汗を流して帰路につきました。参加の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。						
ヤマップ記録 時間 約6時間 距離 約12km						
ヒヤリハット：なし						

観音峯 感想文

染矢 つや子

過去2回 天川村役場から洞川温泉入口までハイキング。途中「観音峯」登山口の標識を目にし気になっていた。地図をみるとしっかりとした登山道であることがわかり、その内にとっていました。

山友会屈指の健脚、黒崎・藤本さんペアの担当で心して当日を迎えた。役場駐車場でラジオ体操の歌を合唱しラジオ体操。CL・SLが違えばやり方もイロイロ。お若い二人の指導に新鮮さを感じた。

青空が今日の素晴らしい1日を後押ししてくれている様で心ウキウキ。

「観音峯」登山口駐車場でトイレ休憩、駐車場は思っていたより広いがすでに満車。

周囲の黄葉の中に少し赤色の紅葉がアクセントとなり「秋の山」を感じさせてくれる。

直ぐに木の階段の急登、時々つづら折りになる登山道、じんわりと汗をかきころ、色づく周囲の木々に陽がさすと一段と緑・黄色・が透き通るようで自然の美しさにうっとり・・・

頂上は展望が望めないとの事で今回は「観音峯展望台」が終点。最後は石の階段、直登、その先に立派な縦長の岩に「観音峯展望台」と彫られ土台は円形、周りは程よい高さのススキに覆われていた。周囲の山々が記されている。その中で気になる山名「頂仙岳」1717m。「狼平避難小屋」北に1時間足らずでいける山であることがわかりました。素晴らしい眺め、「山っていいなーやめられません」

ドライバーの黒崎・木田さん人に優しい心使いに感謝！ 楽しい山行ありがとうございました。

玉置 安世

観音峰って聞いてどんなに厳しいところだろうと思っていたけど、すごく歩きやすい道でした。

みたらい溪谷も初めてで次から次に現れる滝にも癒やされました。紅葉もいい感じでした。観音峰の展望台からは先月登った大日岳や稲村ヶ岳が見えます。

山々を見ながら昼食。なんて贅沢。人数も少なめでしたがみんなでわいわいガヤガヤ賑やかな山行でした。

私のプチヒヤリハット・・・観音水という水場で水を飲もうと下の水をためている石の容器？に足をかけた瞬間、ドボンと靴ごとはまって水浸しになってしまいました。ずぶ濡れに～みなさん気をつけましょう。延命の水らしいので、浸かった右足は長生きすることでしょう(笑)

長時間運転して下さった運転手の方、CL・SLさんご苦労さまでした。

佐々木 康治

観音平は大峰屈指の展望が楽しめ、山麓の溪谷美は魅力がいっぱい。麓まで距離があるのが難だが、その褒美はたっぷり。リーダーの黒崎さん、藤本さんは息の合った俊足ペア、ついていけるのかと不安が先に立つ。NHK ラジオ体操の合唱でスタート、軽快なリズムが心身をリフレッシュさせる。御手洗溪谷は大峰ブルーの清流、バラエティに富む滝群、折り重なる巨岩と絶景のてんこ盛り。コロナの猛威も収束気味、よく整備された遊歩道は多くの遊山客で賑やか。枝切りされスツと伸びた杉林、色づき始めたモミジが老体を励ましてくれる。観音平は 360 度のパノラマ、大きな山名盤にはイラスト付きで周辺の山々の紹介、弥山、八経、頂仙、護摩の壇、高野、稲村、葛城、金剛・・・登った時々の思い出がよみがえる。

上りは木田さんの「坊がつる讃歌」、下りは「森のくまさん」の輪唱、「くまさんのいうことにゃ、お嬢さん、オヌギなさい・・・」とは妙な歌詞、疲れも時も笑いと共に吹っ飛んでいく。長時間運転して下さった黒崎さん、木田さんの方には足を向けて寝られない、ひたすら感謝。

藤本 光代

今日は観音峰ね〜と、朝 6 時前に車を走らせた。まだ紅葉は早いかなあと思いながら天川村役場に向かっていると、チラホラと紅葉が見えてくる。これはもしかしたら山頂のほうは紅葉が見頃？と胸を膨らませる。皆さんと合流して準備体操ののち歩きだす。みたらい溪谷を歩いていると、巨大な岩とエメラルドグリーンの清流「わあ〜綺麗」「魚いてるよ。あそこに」など喜びの声が聞こえてくる。ある女子は観音水の貯水のところでは足がドボーンとはまり、笑いをとってくれるし、目標の観音峰展望台では大日岳も綺麗に見えてそこで昼食することになり「近場でこんなに綺麗な紅葉みれて嬉しい。」や「また、この山にこよう！」とか色んな嬉しい言葉が聞けた。私は何度かきてるので山の感動より皆さんの嬉しい言葉を聞いているほうが喜びを感じたSLでした。



みたらい溪谷遊歩道入口



観音の水

右足が長生きする〜
癒されます!!!



右向け〜右 で 皆さんのつてくれます 🏔️

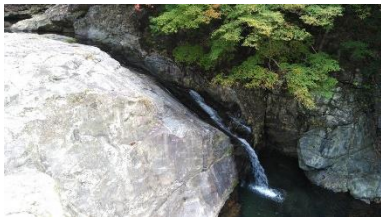
幾田 邦江

以前、先輩から、みたらい溪谷は素敵なところだと聞いた事があり、ぜひとも行ってみたいと思っていました。

清流や、巨石や、紅葉の木々を見ながらの遊歩道は、大変癒されました。

CLさんSLさんの検討のお陰で、観音峯山も、山頂まで登らず、観音峯展望台でゆったりと、360度のパノラマの景色を堪能する事ができました。特に、9月山行の大日山、稲村ヶ岳を見て、あの時の感動を、Yさんと分かち合えた事が、嬉しかったです。

皆で山の形がああだこうだと言いあったり、もりのくまさんを輪唱しながら歩いたり、今回も楽しい山行でした。CLさんSLさん、皆さま、ありがとうございました。来年もご一緒に行きましょう。



みたらいの滝



一枚岩



観音峯登山口





陽が眩しい。いい天気



大日山と稲村ヶ岳



食後 下山前 一緒に



観音平で一休み



きれいな光の滝



哀伝橋から みたらい橋



遊歩道途中の・・・